



松戸市教育委員会

教育長 伊藤 純一

「変化」と「多様性」への「学びの松戸モデル for2030」

華やかな花々から、緑鮮やかな若葉へと移り変わる季節は、年度が切り替わる時期と並行しています。その自然の摂理は新しい年度へ漲るエネルギーを与えてくれます。

引き続きコロナ禍の最中ですが、令和3年度は、守り一辺倒から攻めを基本とした姿勢に変え、昨年度の経験を踏まえた新型コロナウイルス対策を講じながらも、様々な変革のスタートにするべく努力を積み重ねる年と考えています。

総じて、現在のコロナ禍により、日本が本質的に抱える問題が浮き彫りにされました。社会はデジタル化やグローバル化の遅れ、経済格差の拡大、学校の福祉的な役割など、その実態の把握と対策にも頭を悩ますところです。

元より首都圏周縁部に位置する松戸市は依然としてその規模と多様性からのいくつかの教育課題を抱える状況となっています。虐待、いじめ、不登校等に加え、経済格差による貧困、外国人の日本語指導などが深刻さを増しています。その一つ一つの内容は複雑で、要因は絡み合い、解決をより困難にしている場合が多く見受けられます。

一方で、昨年度から実施されている新学習指導要領は、コロナ禍のため実質的には本年度が始まりと言っても過言ではありません。文部科学省がOECDのEducation2030と同期するものと表現されていたように、世界的な流れに向かって、大きく前進した内容はこれまでの日本の学校教育に大きな転換を迫るものとなっています。

あるいはGIGAスクール構想に代表されるICT化の大波のような教育環境に影響を及ぼす様々な、そして急速な変化は、予測不能とさえ言われる様相を生み出しています。

私たち松戸市教育委員会は、これらの多様性と変化に対してぶれなく進むために、これからの松戸市教育行政の短期的指針として「学びの松戸モデル for 2030」を策定しました。昨今顕在化してきた人と人の「つながり」の脆弱化、そしてICT化の影響による「つながり」の質の変化を危惧すると同時に、改めて「ことば」の在り方の大切さを意識すべきだと感じてます。そこで「ことば」と「つながり」をキーワードとして「ことばを育み 人がつながる 学びの松戸」を基本理念としました。

市民の皆さんへ期待する姿のキーワードとしては「自立」「誇り」「つながり」を挙げました。学びを胎内から老いるまで広いスパンで捉え、学ぶ機会の一つ一つに対して施策を吟味しました。既に実施している施策もありますが、多くは本年度を皮切りに進み始めます。松戸市のもつ多様性と社会全体の変化に対して、正面から向き合って進む所存です。教育の難しさは年々増していますが「教育はみんなで」の言葉通り、市民の皆さんのお力をお借りしながら、進めていきたいと考えています。本年度も宜しく願います。